

# 第6次知多市総合計画 中間年度進捗状況報告書

令和7年8月

知 多 市

## 目 次

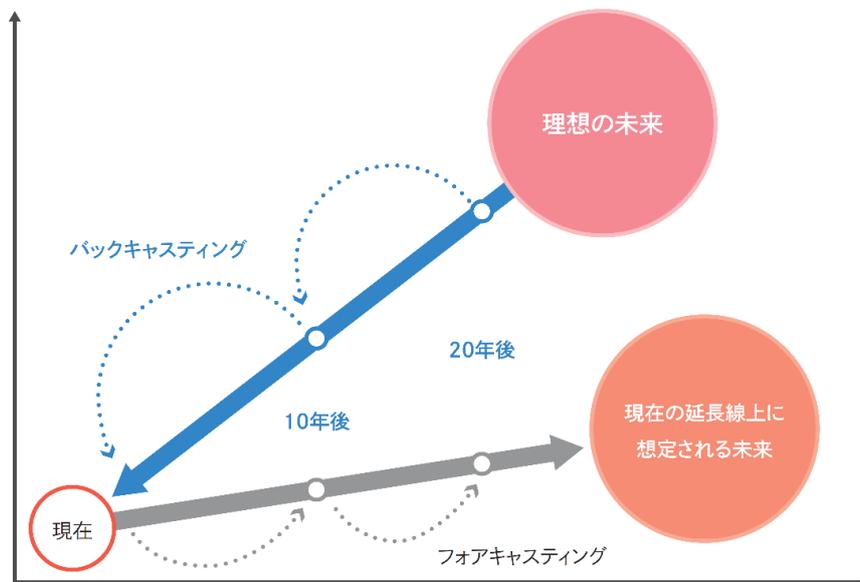
1	第6次知多市総合計画の概要	1
2	計画の進行管理	3
3	重要業績評価指標（KPI）	4
	基本目標1 ひとづくり	4
	基本目標2 あんしんづくり	9
	基本目標3 にぎわいづくり	13
4	市民会議	17
5	総合計画推進パートナーとの意見交換会	18
6	5年間の主な取組	19
7	まとめ	22
8	おわりに	22

## 1 第6次知多市総合計画の概要

本市では、令和2年に市制施行50周年を迎え、市の誕生から半世紀という大きな節目に、まちづくりに関わるすべての人たちと連携・協働して「理想の未来」を実現することを目指した第6次知多市総合計画を策定しました。また、本計画は、行政だけでなく、本市に関わりのあるすべての人が共有する公共計画と位置付けています。

本計画の策定においては、計画期間である令和2～11年度より先の20年後の本市を展望して「理想の未来」を描き、その時点から計画期間を振り返って、実施すべきことを整理する「バックキャストिंग」の考え方を取り入れています。

バックキャストिंगの考え方

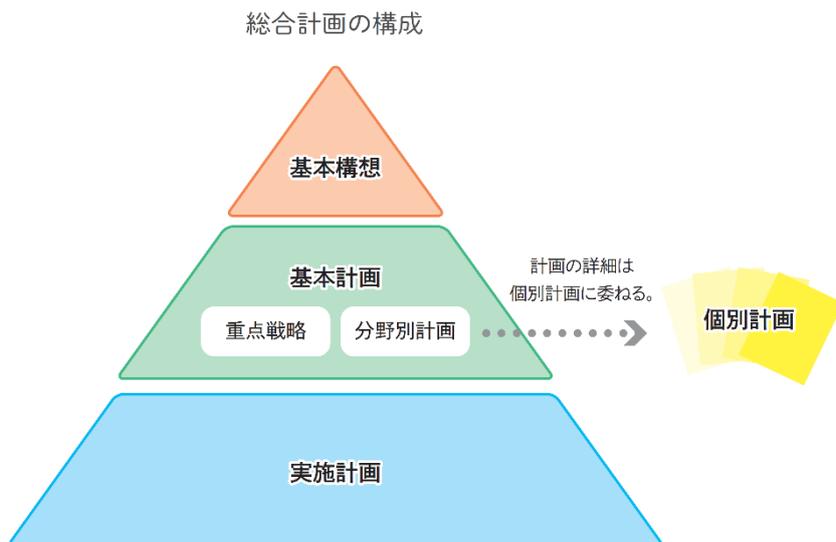


本計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成し、基本計画は重点戦略と分野別計画で構成しています。

重点戦略では、「ひとづくり」「あんしんづくり」「にぎわいづくり」の3つの基本目標を掲げ、分野横断的に施策に取り組んでいます。

実施計画は、本冊とは別に整理し、毎年度見直しを行っています。

## 【総合計画の構成】



構成		内容	期間
基本構想		長期的な視点から、理想の未来、これからのまちづくりの基本的な考え方などを示すものです。	令和2(2020)年度から令和11(2029)年度までの10年間とします。
基本計画	重点戦略	基本構想で描く理想の未来を実現するために、優先的かつ戦略的に取り組む政策を示すものです。	令和2(2020)年度から令和11(2029)年度までの10年間とします。
	分野別計画	あらゆる分野から多面的にアプローチする取組を示すもので、重点戦略を補完するものです。	社会情勢の変化、国の総合戦略及び県の地方版総合戦略の方向性などを勘案し、必要に応じて見直します。
実施計画		中短期的な視点から、基本計画(主に重点戦略)の各項目に関連する具体的な取組を示すもので、予算編成と連動させることにより、計画の実効性を確保します。	3年間の計画とし、毎年度内容の見直しを行います(ローリング方式)。

## 2 計画の進行管理

本市では、総合計画を効果的かつ着実に推進するため、毎年、計画の進捗状況を把握、分析し、今後のまちづくりに活かしています。

### (1) 定量評価・定性評価

定量分析として、重点戦略において設定した重要業績評価指標（KPI）について、事業実績や統計データ、市民アンケート調査などの数値により、進捗状況を確認しています。

定性分析として、数値で測ることのできない取組の進捗については、進行管理シートを用いて各分野の成果を可視化し、庁内での意見交換を通して評価活動を行っています。

また、市民会議「未来ツクリバ」を毎年開催し、市民とともに本市の現状や理想の未来について意見を交わしています。

### (2) 外部評価

総合計画策定時の審議会委員を中心に構成する総合計画推進パートナーと職員が、意見交換する機会を設け、効果検証の妥当性、客観性を確保した評価活動を行っています。

### 3 重要業績評価指標（KPI）

総合計画策定から5年を経過し、中間年度を迎えたことから、「知多市の未来を考える市民アンケート調査」を実施するとともに、重点戦略において設定した重要業績評価指標（KPI）の進捗状況について、網羅的に確認します。

#### 【基本目標1 ひとづくり】

未来を担う子どもを地域全体で支えるとともに、子どもを健やかに育てることができる環境や切れ目のない支援を整え、子育て世帯に選ばれるまちをめざします。

ひとづくりを通じて、地域への関心を高め、地域のために行動する市民を増やすことで地域への愛着が生まれ、さらなる活動が生まれるなど、まちづくりの好循環を導きます。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
1-1 子育てしやすい地域づくり	1 保育園・幼稚園等の待機児童数	0人 (2019年)	0人 (2024年)	0人
	2 放課後児童クラブの待機児童数	0人 (2019年)	0人 (2024年)	0人
	3 子どもが地域や家庭で安心して育てられていると思う市民の割合	74.8% (2019年)	74.7% (2024年)	↑

- 1「保育園・幼稚園等の待機児童数」及び2「放課後児童クラブの待機児童数」については、基準値時点と変わらず0人を保っています。
- 3「子どもが地域や家庭で安心して育てられていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ0.1ポイント減少しています。今後も、安心して子どもを産み育てることができるよう、子育てしやすい環境を整備していく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
1-2 次代の担い手 を育む教育環 境づくり	1 学校が楽しいと感じてい る児童・生徒の割合 (小6/中3)	87.3%/ 80.3% (2019年)	85.1%/ 80.9% (2024年)	95.0%/ 95.0%
	2 将来の夢や目標を持って いる児童・生徒の割合 (小6/中3)	85.9%/ 65.7% (2019年)	79.4%/ 62.9% (2024年)	90.0%/ 90.0%
	3 地域学校協働本部やコミ ュニティ・スクールなど の仕組みを活かして、保 護者や地域の人との協働 による活動を行った学校 の数(小学校/中学校)	7校/2校 (2019年)	<b>10校/5校</b> (2024年)	10校/5校
	4 児童・生徒が適切な環境 のもとで学習していると 思う市民の割合	75.7% (2019年)	<b>81.1%</b> (2024年)	↑

- 1 「学校が楽しいと感じている児童・生徒の割合」については、基準値時  
点に比べ小6が2.2ポイント減少、中3が0.6ポイント増加しています。今  
後も、子どもたちが学習や生活しやすい環境を整備していく必要がありま  
す。
- 2 「将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合」については、基準値  
時点に比べ小6が6.5ポイント、中3が2.8ポイント減少しています。
- 3 「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを活かし  
て、保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の数」については、  
すべての学校において地域学校協働本部及びコミュニティ・スクールが導入  
されており、令和12年度までに、すべてを地域学校協働本部へ移行してい  
く予定です。
- 4 「児童・生徒が適切な環境のもとで学習していると思う市民の割合」に  
ついては、目標に向けて順調に推移しており、基準値時点に比べ5.4ポイン  
ト増加しています。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
1-3 市民協働によるまちづくり	1 自治会、町内会への加入率	70.1% (2019年)	65.3% (2024年)	70.0% (施策の推進により、低下を抑制)
	2 地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合	27.2% (2019年)	22.7% (2024年)	↑
	3 コミュニティ、町内会、自治会などの地域活動が活発に行われていると思う市民の割合	66.5% (2019年)	58.7% (2024年)	↑
	4 青少年が地域の行事やボランティア活動に参加していると思う市民の割合	29.5% (2019年)	28.1% (2024年)	↑

- 1「自治会、町内会への加入率」については、基準値時点に比べ4.8ポイント減少しています。
- 2「地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合」については、基準値時点に比べ4.5ポイント減少しています。
- 3「コミュニティ、町内会、自治会などの地域活動が活発に行われていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ7.8ポイント減少しています。「地域活動やボランティア活動に参加している市民の割合」が減少していることが、この指標項目の減少にもつながっていると考えられます。
- 4「青少年が地域の行事やボランティア活動に参加していると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ1.4ポイント減少しています。
- 今後も、様々な人材が自主的な参加を促すための情報発信や制度づくり、交流の場をはじめとした雰囲気づくりを進めるとともに、地域活動やボランティア活動を支援していく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
1-4 学びを楽しむ まちづくり	1 まちづくりセンター、 公民館利用者数 ※1	150,129人 (2018年)	124,116人 (2024年)	160,600人
	2 歴史民俗博物館の来館者数 ※2	21,767人 (2018年)	13,490人 (2024年)	24,000人
	3 図書館の貸出冊数	536,880冊 (2018年)	456,740冊 (2024年)	603,000冊
	4 サークル活動や習いごと など、文化活動、生涯学 習活動に取り組んでいる 市民の割合	28.0% (2019年)	<b>28.8%</b> (2024年)	↑

※1 八幡コミュニティセンターに移行した八幡まちづくりセンターに係る数値を基準値、現状値、目標値から控除し掲載(八幡まちづくりセンターを含む数値:基準値164,065人 目標値175,000人)

※2 2024年11月5日から12月27日まで臨時休館

- 1 「まちづくりセンター、公民館利用者数」については、基準値時点に比べ26,013人減少しています。新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が半数以下になりましたが、その後は回復傾向にあります。
- 2 「歴史民俗博物館の来館者数」については、基準値時点に比べ8,277人減少し、3 「図書館の貸出冊数」については、基準値時点に比べ80,140冊減少しています。
- 4 「サークル活動や習いごとなど、文化活動、生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」については、基準値時点に比べ0.8ポイント増加しています。
- 今後も、生涯を通じて文化芸術に親しみ、学びを楽しむことができる環境づくりに取り組んでいく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
1-5 多様性を認め 合うまちづく り	1 市の審議会などの委員への女性登用率	26.6% (2019年)	<b>27.8%</b> (2024年)	↑
	2 コミュニティ役員の女性登用率	14.5% (2019年)	14.4% (2024年)	↑
	3 性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合	50.2% (2019年)	<b>51.4%</b> (2024年)	↑
	4 外国人が暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合	39.9% (2019年)	<b>44.3%</b> (2024年)	↑

○ 1「市の審議会などの委員への女性登用率」については、基準値時点に比べ1.2ポイント増加しています。また、2「コミュニティ役員の女性登用率」については、基準値時点に比べ0.1ポイント減少しています。今後も、各課が所管する審議会や委員会等の委員について、さらなる女性登用を推進していく必要があります。

○ 3「性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず、誰もが暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ1.2ポイント増加しています。

○ 4「外国人が暮らしやすいまちになっていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ4.4ポイント増加しています。今後も、多文化共生団体などとともに、交流の機会を通して相互理解を深めながら、多文化共生の推進を図っていく必要があります。

## 【基本目標2 あんしんづくり】

人と人がつながり、地域で支え合うことにより、暮らしの安心感を高めるとともに、誰一人社会から孤立せず、適切な支援を受けられる体制を整えます。

災害時だけでなく、日々の暮らしにおいても、人やまちのつながりを大切にし、自助、互助、共助、公助による連携を強化し、市民協働により安心して暮らせるまちづくりを進めます。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
2-1 共に支え合う 地域づくり	1 地域交流サロン開設か所数	40 か所 (2018年)	<b>50 か所</b> (2024年)	70 か所
	2 認知症サポーターの人数	6,564 人 (2019年)	<b>8,425 人</b> (2024年)	12,000 人
	3 普段の生活の中で助け合える地域になっていると思う市民の割合	61.1% (2019年)	58.0% (2024年)	↑
	4 高齢者がいきがいをもち、安心して暮らしていると思う市民の割合	54.2% (2019年)	<b>55.7%</b> (2024年)	↑

- 1 「地域交流サロン開設か所数」については、基準値時点に比べ10か所増加しています。今後も、地域共生社会の実現に向けて、サロンの支援を進めていく必要があります。
- 2 「認知症サポーターの人数」については、基準値時点に比べ1,861人増加しています。今後も、サポーターを増やし、認知症への理解を深めていく必要があります。
- 3 「普段の生活の中で助け合える地域になっていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ3.1ポイント減少しています。
- 4 「高齢者がいきがいをもち、安心して暮らしていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ1.5ポイント増加しています。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
2-2 一人ひとりに 応じた支援を 受けることが できる体制づ くり	1 身近なところで相談で き、支えてもらえる福祉 の制度・活動があると思 う市民の割合	51.5% (2019年)	<b>55.7%</b> (2024年)	↑
	2 障がい者サービスが整っ ていると思う市民の割合	46.2% (2019年)	<b>50.2%</b> (2024年)	↑

○ 1「身近なところで相談でき、支えてもらえる福祉の制度・活動があると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ4.2ポイント増加しています。今後も、身近なところで相談でき、適切な支援を受けられる体制を整備していく必要があります。

○ 2「障がい者サービスが整っていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ4.0ポイント増加しています。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
2-3 暮らしを支え る地域公共交 通ネットワー クづくり	1 コミュニティ交通の1便 当たりの利用者数	11人 (2018年)	<b>17人</b> (2024年)	15人
	2 地域交通(バスなど)によ り市内の移動が便利であ ると思う市民の割合	22.0% (2019年)	<b>25.1%</b> (2024年)	↑

○ 1「コミュニティ交通の1便当たりの利用者数」については、基準値時点に比べ6人増加しています。

○ 2「地域交通(バスなど)により市内の移動が便利であると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ3.1ポイント増加しています。今後も、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を図っていく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
2-4 災害に強く、 安全に暮らす ことができる まちづくり	1 住宅耐震化率	80.9% (2018年)	<b>83.4%</b> (2024年)	95.0%
	2 交通事故発生件数	1,825件 (2018年)	<b>1,781件</b> (2024年)	1,740件
	3 刑法犯認知件数	342件 (2018年)	347件 (2024年)	340件
	4 日頃から家庭で地震や風水害などへの備えをしている市民の割合	43.0% (2019年)	<b>47.2%</b> (2024年)	↑
	5 行政や地域の防災対策により、安心して暮らしていると思う市民の割合	65.6% (2019年)	64.5% (2024年)	↑
	6 消防・救急体制が充実していると思う市民の割合	83.1% (2019年)	<b>84.9%</b> (2024年)	↑

- 1「住宅耐震化率」については、基準値時点に比べ2.5ポイント増加していますが、今後も、耐震診断や改修・除却に関する支援を継続していく必要があります。
- 2「交通事故発生件数」については、基準値時点に比べ44件減少しています。一方で、3「刑法犯認知件数」については、目標値を下回る値で推移していましたが、中間年度においては5件増加しています。
- 4「日頃から家庭で地震や風水害などへの備えをしている市民の割合」については、基準値時点に比べ4.2ポイント増加しています。一方で、5「行政や地域の防災対策により、安心して暮らしていると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ1.1ポイント減少しています。また、6「消防・救急体制が充実していると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ1.8ポイント増加しています。
- 今後も、さらなる行政や地域の防災対策の強化を図っていく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
2-5 生涯を通じた 健康づくり	1 65歳以上の高齢者が要介護認定を受けている割合	11.0% (2018年)	<b>12.4%</b> <i>(2024年)</i>	15.0%以内 (施策の推進により、増加を抑制)
	2 国民健康保険被保険者1人当たり医療費	345,849円 (2018年)	397,816円 (2024年)	県内市町村平均医療費のプラス1%以内
	3 週1回以上運動やスポーツに取り組んでいる市民の割合	64.6% (2019年)	<b>67.4%</b> <i>(2024年)</i>	↑
	4 健康診査やがん検診を定期的に受けている市民の割合	78.8% (2019年)	78.3% (2024年)	↑

- 1 「65歳以上の高齢者が要介護認定を受けている割合」については、基準値時点に比べ1.4ポイント増加しています。
- 2 「国民健康保険被保険者1人当たり医療費」については、基準値時点に比べ51,967円増加しており、今後も、医療費の減少に向け、市民の健康づくりを推進していく必要があります。
- 3 「週1回以上運動やスポーツに取り組んでいる市民の割合」については、基準値時点に比べ2.8ポイント増加しています。
- 4 「健康診査やがん検診を定期的に受けている市民の割合」については、基準値時点に比べ0.5ポイント減少しています。
- 今後も、すべての世代の市民が自分に合ったスポーツや健康づくりに関心を持ち、活動できる環境を整備していく必要があります。

### 【基本目標3 にぎわいづくり】

長年築いてきた緑園都市に磨きをかけ快適な住環境を整備すること、地域に新たな仕事をつくること、買物や食事の利便性を高めること、また、イベントや観光などの楽しみを創出することなどを連携して進めます。

暮らしの満足度を高め、定住人口の増加を図り、これからも知多市で暮らし続けたい、知多市で暮らしてみたいと感じることができるまちづくりを進めます。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
3-1 にぎわいの拠点づくり	1 市内に買物や外食で利用したい店があると思う市民の割合	40.6% (2019年)	<b>48.1%</b> (2024年)	↑
	2 駅周辺が機能的で利用しやすいと思う市民の割合	15.3% (2019年)	<b>15.9%</b> (2024年)	↑

- 1 「市内に買物や外食で利用したい店があると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ7.5ポイント増加しています。
- 2 「駅周辺が機能的で利用しやすいと思う市民の割合」については、基準値時点に比べ0.6ポイント増加しています。
- 今後も、朝倉駅周辺整備など、さらなるにぎわい創出を図っていく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
3-2 新たなしごと の場づくり	1 市内で働く市民の割合	35.7% (2015年)	34.4% (2020年)	36.3%
	2 市内の企業や商店に活力があると思う市民の割合	17.7% (2019年)	<b>26.2%</b> <i>(2024年)</i>	↑
	3 仕事と仕事以外の時間とのバランス(ワーク・ライフ・バランス)がとれている市民の割合	62.1% (2019年)	<b>67.3%</b> <i>(2024年)</i>	↑

- 1 「市内で働く市民の割合」については、基準値時点に比べ 1.3 ポイント減少しています。今後も、工業団地の整備や成長産業の企業誘致を進め、市内に新たな雇用を創出することで、市民の就労の選択肢を増やしていく必要があります。
- 2 「市内の企業や商店に活力があると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ 8.5 ポイント増加しています。
- 3 「仕事と仕事以外の時間とのバランス(ワーク・ライフ・バランス)がとれている市民の割合」については、基準値時点に比べ 5.2 ポイント増加しています。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
3-3 緑と花に包ま れた住環境づ くり	1 社会動態数(転入者数-転 出者数)	▲223人 (2018年)	▲204人 (2024年)	↑
	2 子育て世帯の純移動数	▲232人 (2018年)	▲152人 (2024年)	↑
	3 知多市の自然、公園、家 の周辺などの「まちの 緑」に満足している市民 の割合	69.5% (2019年)	71.0% (2024年)	↑
	4 知多市でこれからも暮ら し続けたいと思っている 市民の割合	82.4% (2019年)	83.6% (2024年)	↑

- 1「社会動態数(転入者数-転出者数)」及び2「子育て世帯の純移動数」については、5年間でおおむね基準値よりも良好な値で推移しており、目標に向けて改善されています。
- 3「知多市の自然、公園、家の周辺などの「まちの緑」に満足している市民の割合」については、基準値時点に比べ1.5ポイント増加しています。
- 4「知多市でこれからも暮らし続けたいと思っている市民の割合」については、基準値時点に比べ1.2ポイント増加しています。
- 今後も、緑と花に囲まれ、ゆったりと落ち着いて暮らせる魅力ある住環境を形成することで、子育て世帯の定住を促進していく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
3-4 新たなチャレンジを創出するまちづくり	1 創業件数	19件 (2018年)	<b>30件</b> (2024年)	30件
	2 夢や目標、新しいことに向かってチャレンジしている市民の割合	36.9% (2019年)	<b>40.9%</b> (2024年)	↑

- 1 「創業件数」については、基準値時点に比べ11件増加しています。
- 2 「夢や目標、新しいことに向かってチャレンジしている市民の割合」については、基準値時点に比べ4.0ポイント増加しています。
- 今後も、若者の夢や目標に向けたチャレンジを応援するとともに、創業を支援していく必要があります。

政策	指標	基準値	中間年度値 (2024年)	目標値 (方向性)
3-5 観光に活かすことができる魅力づくり	1 観光入込客数	927,233人 (2018年)	<b>1,029,585人</b> (2024年)	1,000,000人
	2 観光として魅力ある場所やイベントがあると思う市民の割合	20.0% (2019年)	<b>22.7%</b> (2024年)	↑

- 1 「観光入込客数」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減りましたが、その後順調に回復し、基準値時点に比べ102,352人増加しています。
- 2 「観光として魅力ある場所やイベントがあると思う市民の割合」については、基準値時点に比べ2.7ポイント増加しています。
- 今後も、市内で観光やイベントを楽しめるよう、観光資源の磨き上げを行い、交流人口の増加を図っていく必要があります。

#### 4 市民会議

本市では、総合計画に掲げる「理想の未来」の実現に向けた取組について、市民とともに考える「市民会議」を開催しています。

この会議では、市の現状について意見交換を行い、新たな取組を考えるとともに、市民の声をまちづくりに活かす機会としています。

##### 【これまでの市民会議】

年度	テーマ・内容
R2	『まちづくりスタートアップセミナー まちの日常づくりのススメ』 (2020年11月29日(日)) ・講師 日本福祉大学 国際学部教授 吉村 輝彦 氏 同志社大学 政策学部教授 入江 容子 氏 ・グループトーク 「話題を受けて感じたこと」「ゲストに質問したいこと」 ・“ちいさく たのしく できそうなこと” をスタートアップ宣言 ・参加者数 30名(そのうちオンライン10名)
R3	『未来ツクリバ 私を生かして、まち育て～まちの縁側って?～』 (2021年9月4日(土)) ・講師 日本福祉大学 国際学部教授 吉村 輝彦 氏 NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事 名畑 恵 氏 ・グループトーク 「印象に残ったこと」「できることやしたいこと」 ・参加者数 オンライン44名
R4	『未来ツクリバ』 (2022年12月18日(日)) ・講師 愛知大学 法学部准教授 加藤 洋平 氏 ・グループワーク 「にぎわいのあるまちって?」「新たににぎわいの場所を考える」 ・参加者数 16名
R5	『未来ツクリバ』 (2024年2月18日(日)) ・講師 愛知大学 法学部准教授 加藤 洋平 氏 ・ゲスト 名古屋オーシャンズ(プロフットサルチーム) ・グループワーク 「私たちにとってのスポーツ・健康づくりとは?」 「名古屋オーシャンズと〇〇・・・!」 ・参加者数 40名
R6	『未来ツクリバ』 (2024年12月7日(土)) ・講師 日本福祉大学 国際学部教授 吉村 輝彦 氏 同志社大学 政策学部教授 入江 容子 氏 ・グループワーク 「考えよう!理想の未来に向けて」 ・参加者数 45名

## 5 総合計画推進パートナーとの意見交換会

総合計画推進パートナーと職員が、重点戦略に関連した事業について意見交換を行っています。

この意見交換会では、予算概要の主要施策事業ごとに前年度実績と評価、今後の方向性を整理した「進行管理シート」を活用しています。

進行管理シートをもとに、これまでの取組を振り返りつつ、そこから得られた成果や今後の方針、課題について意見を交わすことで、職員が今後の方向性や課題解決の糸口に気づき、成長できる評価活動につなげています。

また、総合計画推進パートナーの多様な視点や助言は、各事業の取組を進める上での後押しとなり、より施策の実効性を高めています。

### 【これまでの意見交換会】

年度	テーマ・内容
R3	『地域資源の活用と地域づくりの担い手育成』『参加につながるデザイン』 ・担い手育成、市民との連携や協働、市民参加につながる広報、PR活動に関連する事業について意見交換 ・参加者数 総合計画推進パートナー8名 職員15名 計23名
R4	『ひとづくり』『にぎわいづくり』 ・多様な主体や地域とのつながりによるひとづくり、観光や地域資源などを活用したにぎわいづくりに関連する事業について意見交換 ・参加者数 総合計画推進パートナー8名 職員13名 計21名
R5	『防災まちづくり』『スポーツによるまちづくり』 ・防災に関連したまちづくり、eスポーツや名古屋オーシャンズの活用によるスポーツのまちづくりに関連する事業について意見交換 ・参加者数 総合計画推進パートナー9名 職員13名 計22名
R6	『ひとの未来』『まちの未来』 ・総合計画に掲げている「ひとの未来」「まちの未来」に関連する事業についてデジタルの活用を交えながら意見交換 ・参加者数 総合計画推進パートナー10名 職員16名 計26名
R7	『多様な地域交流』『暮らし・働き方』『DX』『施設マネジメント』 ・市民生活や地域運営、行政の業務運営に関連する事業について意見交換 ・参加者数 総合計画推進パートナー10名 職員15名 計25名

職員向けの意見交換会と市民向けの市民会議のテーマを連動させることで、それぞれの立場から多様な意見を出し合い、互いの視点を補完しながら、より深い議論につなげています。

## 6 5年間の主な取組

### 【基本目標1 ひとづくり】

政策	事業名 【担当課】	事業内容	年度				
			R2	R3	R4	R5	R6
1-1 子育てしやすい地域づくり	放課後子ども総合プラン事業 【子ども若者支援課】	放課後児童クラブ 運営の民間委託					
	子ども医療費助成事業 【保険医療課】	子ども医療費の入院・通院にかかる 助成対象を高校生 世代まで拡大					
	母子保健事業 【健康推進課】	多胎児の家庭支援 (家事援助や外出 支援等)					
1-2 次代の担い手 を育む教育環 境づくり	G I G Aスクール構想推進事業 【学校教育課】	タブレット端末や デジタル教材を活 用した I C T 環 境を整備					
	小学校・中学校建設事業 【学校教育課】	老朽化した校舎等 の改修や小中学校 の特別教室及び体 育館への空調設 備の整備					

【基本目標2 あんしんづくり】

政策	事業名 【担当課】	事業内容	年度				
			R2	R3	R4	R5	R6
2-2 一人ひとりに 応じた支援を 受けることが できる体制づ くり	重層的支援体制整備事業 【福祉課】	地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施					
2-3 暮らしを支え る地域公共交 通ネットワー クづくり	地域公共交通事業 【市民協働課】	地域バスの導入及び運行の支援					
2-4 災害に強く、 安全に暮らす ことができる まちづくり	消防車両整備事業 【庶務課】	複雑多様化する消防・救急業務に対応し、市民の安全・安心を確保するため、消防自動車や救急自動車等を更新					
2-5 生涯を通じた 健康づくり	健康増進施設整備事業 【健康推進課】	西知多医療厚生組合が整備した温水プール等の健康増進施設の建設及び運営を支援					

R3～5：建設支援

R6～：運営支援

### 【基本目標3 にぎわいづくり】

政策	事業名 【担当課】	事業内容	年度				
			R2	R3	R4	R5	R6
3-1 にぎわいの拠点づくり	朝倉駅周辺整備事業 【新庁舎整備室・都市計画課】	新庁舎・駅前駐車場の整備等の推進					
3-2 新たなしごとの場づくり	市街地整備事業 【都市計画課】	大興寺（2期）地区工業団地の整備及び工業系の新南地区土地区画整理事業を支援					
3-3 緑と花に包まれた住環境づくり	公園等整備事業 【緑と花の推進課】	知多運動公園、七曲公園、旭公園、街区公園の整備					
3-5 観光に活かすことができる魅力づくり	観光振興事業 【商工振興課】	新舞子ビーチフェスティバルや佐布里池梅まつりなど、知多市の魅力を活かしたイベントの開催					

## 7 まとめ

本市の総合計画では、数値で測る定量評価、現場の声を活かす定性評価、外部の視点からの外部評価の3つの評価手法を組み合わせることで、計画の実行性を高めています。

重点戦略ごとに設定したKPI（重要業績評価指標）をもとに進捗を確認した結果、全50項目中29項目で目標値を達成し、未達成の項目についても4項目で目標値に向けて前進が見られました。一部では成果が順調に現れている一方で、進行が思わしくない分野も見られたため、そうした分野については、取組手法の見直しや他の施策との連携強化が求められます。特に数値で遅れが見られた施策については、中間年度の検証を踏まえ、実施計画の優先順位や内容を見直し、残りの計画期間で成果の最大化を図れるよう、早期の事業見直しや対応に取り組んでいきます。

あわせて、市民会議や総合計画推進パートナーとの意見交換会では、対話を通して数値では見えづらい業務の進捗状況や事業の波及効果を点検しました。これらの評価結果は、今後の施策の改善や制度の運用上の工夫などに活かしていきます。

## 8 おわりに

本計画の基本構想では、「まちづくりの基本的な考え方」として、「(1)夢や希望に向かってチャレンジする」「(2)地域全体で子どもを大切に育てる」「(3)人やまちとのつながりを大切にする」「(4)多様性を認め合う」の4つの考え方を掲げ、「理想の未来」の実現に向けて取り組んできました。

令和2年の本計画策定以降、コロナ禍によるライフスタイルの変化やDX（デジタルトランスフォーメーション）の進展により、社会全体のデジタル化が急速に進み、暮らしや働き方を含む生活様式が大きく変化しました。それに伴い、個人の意識や社会の価値観にも大きな変化が生まれています。

このような社会情勢においても、「バックカスティング」の考え方を活用して、目標に向かって臨機応変にアプローチすることで、引き続き本市の掲げている「理想の未来」の実現に向けて、着実に取組を進めていきます。





梅香る わたしたちの緑園都市

## 第6次知多市総合計画 中間年度進捗状況報告書

令和7年8月

知多市企画部企画政策課

〒478-8601 知多市緑町1番地

電話 0562-36-2639 (直通) F A X 0562-32-1010

URL <https://www.city.chita.lg.jp>

E-mail [kikaku@city.chita.lg.jp](mailto:kikaku@city.chita.lg.jp)